

ジョイサポコラム No.7

ワークエンゲージメント

横須賀共済病院 北村理絵子

私が医師になった当時、北里には「女医はいらない」と公言していた科が少なくとも3つあった。3科とも志望で無く「仕方ないな」くらいにしか思っていなかったが、今思えば異常だった。

入局した形成外科は文字通り「男女の区別なく」扱ってくれた。人事などで考慮する項目は、それぞれのキャラクターであった様に思う。私は精神的にも体力的にもタフな方だったため、良い経験がたくさん出来た。病院に泊まり込みもあったし、帰ったと思ったらすぐに緊急手術で呼び出され、結局病院泊まりなんて事もあった。それが当たり前だったし、とにかく仕事が楽しく疲労はあったが辛くは無かった…。今思えばこれも異常だ。医師だってひとそれぞれ。タフな人もいれば弱い人だっている。それなのにタフな方に「標準」「基本」があったために、犠牲も出たのだろう。

翻って、最近の研修医制度はとても過保護だ。時間外労働は御法度。当直が無ければ土日祝は休み。当直明けの午後は休み。なので、連休の1日前を当直明けにして大型連休をフルに満喫する強者もいる。この研修医制度が始まった当初、当直明けに帰した研修医が「こんな時間から新橋で飲んでまーす」とFacebookに挙げていて怒りを覚えたが、今は彼らの特権なのだと思う。

この制度の短所は「弱い人」を標準にしている事だろう。研修医の中には精神的にも体力的にもそして知力もずば抜けている人材が

いるが、一律同様な扱いだ。本人達も「学生の延長。この時期の2年は長期的には誤差範囲」と割り切っていてハングリーには見えない。「若いときの苦労は買ってでもしろ」と言われた自分には、もったいないとも思える。形成外科医は職人なので「見て覚える」「多くの症例をみる」事がとても大切だ。頭が悪く不器用だった自分は体力のある若い時に色々経験出来て本当にラッキーだったと思うが、手術動画がネットで見られる現代、病院での泊まり込みはあまりに前時代的だし「若いときの苦労…」は今やNGワードなのだろう。

最近気にするのは【ワークエンゲージメント (WE)】。同じ仕事をしていても「楽しく自主的に」仕事をこなす人もいれば「体力的/精神的に限界を感じながら」従事する人もいる。前者はWEが高く後者は低い事が予想される。WEが高い者には良い経験となる苦労は押し売りしたいが、それが無駄な精神的苦痛になるなら若かろうが買わせてはいけない。若い医師がどれだけこの仕事を楽しんでいるかを見極め、そして仕事を楽しめる様に工夫しなければならないのだろう。「病院に泊まり込む」事や「休みをあげる」事に主眼をおいた研修医制度ではなく、個々のWEが数値化され、ある程度は自由に対応できれば良いのと思う。

とは言え、まずは年々低下する自分のWEを維持する方が大切な様だ。